

東日本大震災から読み解く日本の「こころ」 俳句、討論、合唱コンサート in ニューヨーク

東日本大震災は2012年3月11日に一年を迎えます。歴史的規模の震災・原発事故が重なり国際社会に与えた衝撃は大きく、その後の政府の対応また日本が世界から救援を受け入れる国となったという意味でも、日本にとって未曾有の体験でした。日本社会、中でも人々の「こころ」は、このことにどのように反応し、対応し、消化しようとしているのでしょうか。

東京財団はコロンビア大学東アジア研究所、同大学ドナルド・キーン日本文化センターと共催で、俳人 黛まどか氏による講演「物言わぬ国の文化力」をニューヨークにて下記のとおり開催します。また講演につづき、コロンビア大学の日本文学専門の教授陣と黛氏とのパネルディスカッションを行い、より深く日本の感性を浮き彫りにするとともに、地球上のだれにでも起こりうる自然災害において、日本的な感性が人類全体に与える普遍性を模索します。

また、当日は、新作合唱曲「そして、春～フクシマから世界へ」(黛まどか作詞、千住明作曲)の初演発表を千住明氏の指揮で行います。合唱するのは、ニューヨークで働く日本人による混声合唱団「ジャパン・コーラル・ハーモニー」と同じく邦人による「ニューヨーク男声グリークラブ」です。

報道関係者のご取材を歓迎いたします。詳細はこちらをご覧ください。

www.tokyofoundation.org/en/heart-of-japan

第1部: 講演「もの言わぬ国の文化力」



日本政府文化交流使としてパリを中心に欧州で1年間活動した黛まどか氏が、「自然との一体感」「型の自由」「積極的曖昧性」「余白美」などの俳句の特徴を通じて日本文化を語る。さらに、震災直後の東北の人々が読んだ俳句を例に、日本人の心のありようと普遍性を模索する。

第2部: パネルディスカッション「日本文化と震災」

コロンビア大学の協力により、日本文化を専門とする米国の研究者と黛氏によるパネルディスカッション。いわゆる日本らしさの上に成り立つ日本社会の特質や将来像、それがもつ普遍的な価値と現代文明が直面する課題への有効性などについて、幅広く議論を展開する。聴衆や専攻学生との対話も行う。

第3部: 合唱「そして、春～フクシマから世界へ」



黛まどか作詞、千住明作曲。 合唱: Japan Choral Harmony、ニューヨーク男声グリークラブ

第1部と第2部であきらかにされる日本的な感性の一つの具現化を試みる。震災・津波・原発事故と今後長期にわたる苦悩に見舞われてしまったフクシマの人々が、故郷を離れても、また楽器や道具がなくても、長く歌い継いでゆけるような再生に対する応援歌、同時に、日本中の人たちが震災に心を寄せるような合唱曲の初演。指揮: 千住明。

主催: 公益財団法人東京財団、コロンビア大学東アジア研究所、コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター
協力: ニューヨーク日本商工会議所/日本クラブ、Japan Choral Harmony、ニューヨーク男声グリークラブ

お問い合わせ: 東京財団 広報渉外ディレクター 今井 +81-3-6229-5504(代) imai@tkfd.or.jp
コロンビア大学広報担当 Daniel Rivero +1-212-854-1735 dr2260@columbia.edu